

# 県外派遣報告書

一社)栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	令和4年度 関東中学校バスケットボール大会	開催地	東京都 駒沢体育館 駒沢屋内球技場
報告者名	若林謙作 岡龍哉 慶野芽以 関南実	派遣期間	令和4年8月8日 ~ 8月10日
本部及び指名審判員	平原勇次氏 大庭英裕氏 長谷川裕氏 星野由貴氏 赤羽沙耶氏		

## 8月8日(月)1日目

審判員名	CC 慶野芽以 U1 井澤元花(東京) U2 飯島愛美(茨城)		
カード	女子1回戦 13:30 志茂田(東京)79-47あずま(群馬)		
ゲームについて	会場	駒沢体育館	
<p>試合は、比較的クリーンに進んだゲーム展開となった。現象が少ない時間帯が多かったが、特に1Qにおいては、クルーそれぞれが自分のプライマリー内を責任をもって判定し、判定の基準を示すことができた点がスムーズな試合運びに繋がったと感じる。一方で、クロック管理の面においては課題が残った。マジックタイムの確認や、得点後のタイムアウト時のゲームクロック確認などが甘く、時計が流れてしまっていた場面があった。今後の大きな課題として、しっかりと取り組んでいきたい。</p>			

審判員名	CC 千葉美幸(東京) U1 須藤れい(群馬) U2 関南実		
カード	女子1回戦 13:30 実践学園(東京)50-43富士学苑(山梨)		
ゲームについて	会場	駒沢屋内球技場	
<ul style="list-style-type: none"><li>・前半にテンポセットとして実践学園中のDFの際の身体の寄せ方やハンドチェックを細かく判定できれば良かった。</li><li>・ローテーションを1Qから積極的に起こすことができた。</li><li>・Cでの見方をもっと工夫したほうが良い。</li><li>・Lで中に入りすぎてしまう場面があったのでボールラインを意識する必要がある。</li><li>・ボールがデッドの時に選手の交代があったがすぐにリスタートしてしまったので、TOとベンチ管理の徹底が必要だった。</li><li>・少し判定が揺らいでしまう場面があったので1試合を通して安定した判定をする必要があった。</li></ul>			

## 8月9日(火)2日目

審判員名	CC 若林謙作 U1 三輪至(東京) U2 金子航(千葉)
カード	男子2回戦 13:30 実践学園(東京)73-50藤代(茨城)
ゲームについて	会場 駒沢屋内球技場
<p>地元東京の実践学園中と茨城1位の藤代中との対戦だった。試合序盤に藤代中の#4、#5がファールトラブルになり、ファールの積み上げ方に苦勞する試合となったが、選手たちが判定基準を理解し、結果的には最後までコートに立ち続けることができた。個人ファールの数やチームファールのバランスなどをクルーと共有することで、ファールを吹く吹かないの判断に生かすことができた。プライマリーを意識し、エリアを逸脱した判定をしないように心がけたが、大事な場面ではCCメンタリティーを発揮する必要があると感じた。CC・U1・U2関係なく、常にゲームフローを把握し、適切に対応・判定していく必要があると改めて思われた。</p>	

審判員名	CC 佐田幸一(山梨) U1 岡龍哉 U2 星河聖(群馬)
カード	女子2回戦 9:30 守谷(茨城)41-42八雲学園(東京)
ゲームについて	会場 駒沢屋内球技場
<p>試合は前半お互いを探るような重い展開であった。八雲は4番の1対1、守谷は10番長身選手のインサイド主体で戦っていた。お互いに余計なファウルは少ない中でも、クルーで取り上げた方が良いものはファウルとしてテンポセットしていった。ゲームは終盤拮抗したなかで八雲のスリーポイントが決まりリードしたが守谷もポストプレーを中心に戦い続けた。ポストマンにマークする八雲の守り方がズレた時の判定は振り返りたい。点差が少ない中で集中力を高めて最後まで判定していくことが大切だと感じた。</p>	

審判員名	CC 加藤暁生(東京) U1 慶野芽以 U2 関南実(栃木)
カード	女子準々決勝 14:50 梅丘(東京)47-83八王子一(東京)
ゲームについて	会場 駒沢体育館
<p>PGCではクルーワークについて重きを置き、3人で協力してコート全体を把握していくための「目の当て方」を確認して、ゲームに臨んだ。</p> <p>試合は、全国大会出場がかかった東京都代表同士の対戦だった。1Qから八王子一中が抜け出す展開となったが、梅丘も強い姿勢でくらいつき、白熱したゲームとなった。女子ゲームに多く見られる「Defの体の寄せ」が多く見られたゲームだったが、1つ1つのプレーにしっかりと足を運び、根拠をもって吹き続けることができた点は、大きな自信に繋がった。ドライブやショットに対してDefが遅れて接触してしまう現象は、大きなインパクトがないケースも多いが、プレーには大きく影響が出てしまうものであると感じている。どのようなゲームでも、どのようなクルーでも、自分の判定基準をぶらさずに、力強く表現していく姿勢を大切に今度も励んでいきたい。</p>	

審判員名	CC 加藤暁生(東京) U1 慶野芽以(栃木) U2 関南実
カード	女子準々決勝 14:50 梅丘(東京)47-83八王子一(東京)
ゲームについて	会場 駒沢体育館
<ul style="list-style-type: none"><li>・地元東京の梅丘中と八王子一中の対戦だった。</li><li>・1試合通してクルーで協力して試合を進めることができた。</li><li>・プライマリーで起こったブロックorチャージ、またトランジションの際に起こったビッグインパクトに対してT、Lの死角になっていたのでCの自分から判定できれば良かった。</li><li>・Tから判定していいケースがあった。</li><li>・終始積極的にプレーを見に足を運んでいた。</li><li>・クルーチーフメンタリティーをもって試合に臨めるとなお良かった。</li></ul>	

## 8月10日(水)最終日

審判員名	CC 佐田幸一(山梨) U1 若林謙作 U2 青木太一(神奈川)		
カード	男子準決勝 10:50 東海菅生(東京)57-67豊野(埼玉)		
ゲームについて	会場	駒沢屋内球技場	
<p>両チームともインサイドに180cmを超えるビックマンを擁し、見応えのある争いが展開された。特に豊野中は180cm以上の選手が3人所属し、いずれかのポジションでミスマッチがあった。対する東海菅生中もマッチアップを流動的に変更し対応していた。その中でディフェンスの守り方に基準を示す場面がいくつも見られた。クルーでプライマリーのレフリーが必ず判定するよう心がけたが、もっと判定しても良い場面があった。またオフェンスのトラベリング(突き出し)について、明確に基準を示せず、整理しきれないところがあった。さらに、体格に差があるためオフボールのコンタクトでリアクションが大きくなるケースがあったが、アクションに対して適切な判断が下せないままになってしまった。選手のインテンシティーが高まってもおかしくない場面だった。</p>			

審判員名	CC 長谷川裕(指名) U1 山岸大輔(埼玉) U2 岡龍哉		
カード	男子決勝 14:00 豊野(埼玉)67-56実践学園(東京)		
ゲームについて	会場	駒沢体育館	
<p>大会最終ゲームは埼玉代表、豊野と東京代表、実践学園の対戦となった。豊野はスタートメンバー全員が1対1能力が高く、実践学園はインサイドの長身選手中心にバランスの取れたチームであった。プレゲームカンファレンスでは発展途上の中学生がこの試合でも成長できるようなレフリングを確認した。試合では自分のプライマリを大切に判定を積み重ねた。振り返るとリバウンドの争いなどシンプルにコールしていいところがあった。また、ゲームフローを意識した判定や選手への声かけ、ベンチ管理、TO管理などCCの長谷川氏が手本を見せてくれた。ゲームの中で沢山の情報を把握し表現していくことが大切で、CCメンタリティの力をつけなくてはならないと感じた。試合は互いに力を出し合い、いいゲームとなったが最後は豊野が競り勝った。豊野は男女ともに優勝であった。</p>			